

**2020年度第1回女性・キャリアデザインプロジェクト
第2グループ
研究テーマ：
「効率の良い留学」**

日本医科大学：瀧澤敬美、眞野あすか、遠田悦子（リーダー）

日本獣医生命科学大学：知久和寛、石原慎矢、渡辺雄貴

本研究の背景と目的

- 昨今は、留学を希望する若者が減少する傾向があり、このコロナ禍においてはその傾向はさらに増すものと予想される。
- 一方で留学を希望するにもかかわらず種々の事情により留学を踏みとどまるケースも存在する。

考えられる要因

ライフイベントと留学、あるいは安定な将来の雇用と留学、を両立させるにはどうしたらいいのか、という不安

この不安を解消するためには留学の「効率の良さ」が求められる？

本研究では、

1. 日本医科大学・日本獣医生命科学大学における留学状況の調査
2. 身近にいる留学経験者へのアンケート

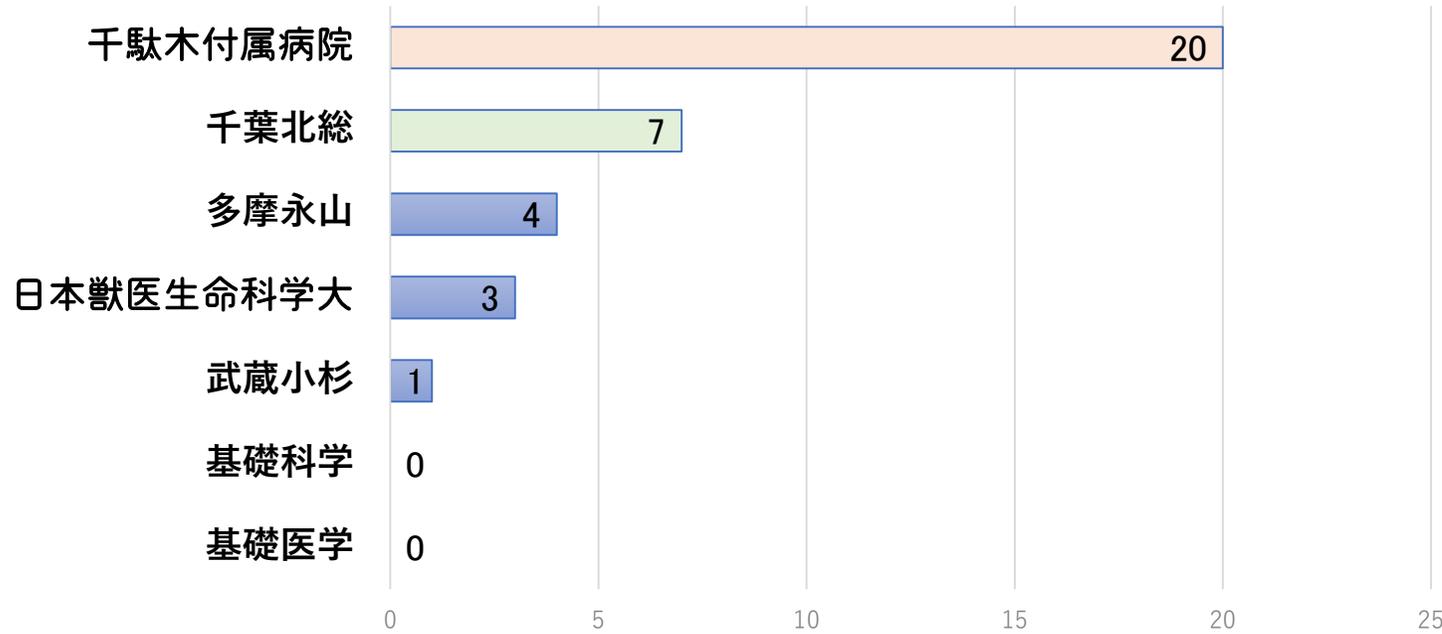
を実施し、留学の実態と経験から導き出される「効率の良さ」について考察を行った。

1. 日本医科大学・日本獣医生命科学大学における 過去3年間の留学状況

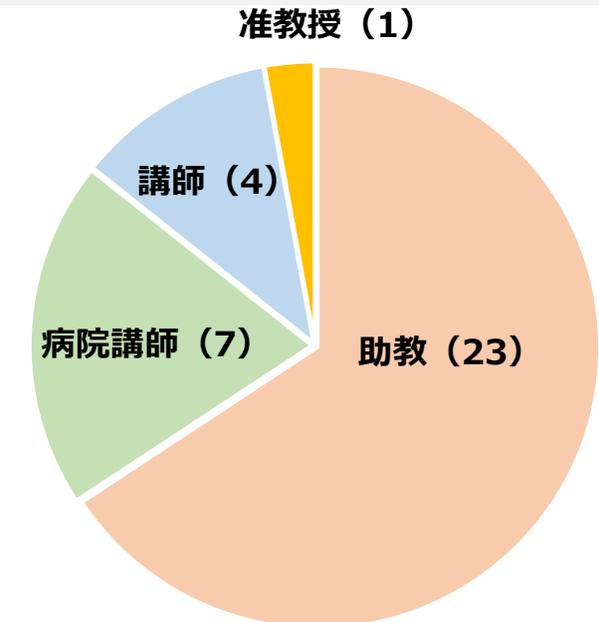
- 日本医科大学・日本獣医生命科学大学における過去3年間の留学状況を
ONE HEALTH広報誌をもとに調査した。

日本医科大学・日本獣医生命科学大学における過去3年間の留学状況：留学者の属性

2018年～2021年の留学者（35名-予定者6名含む）の所属

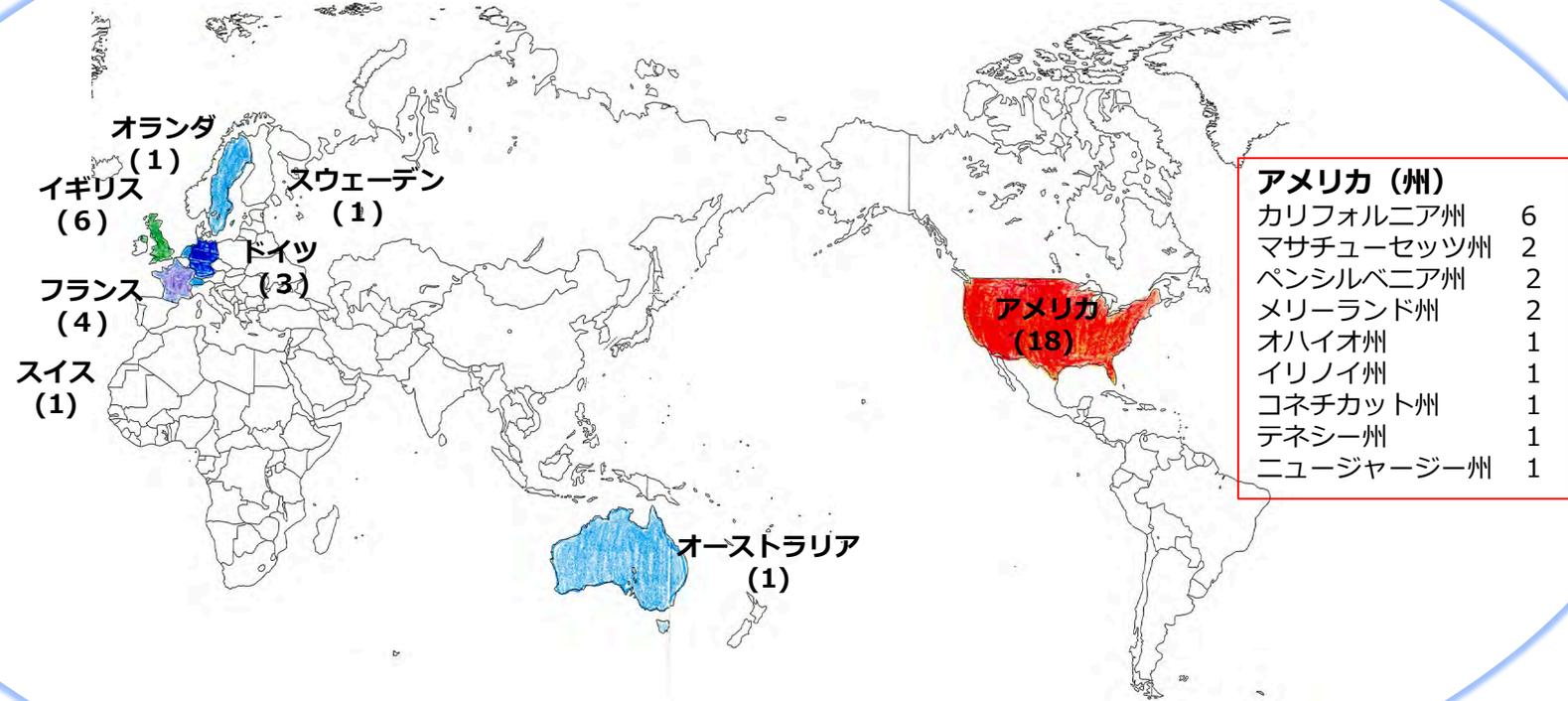
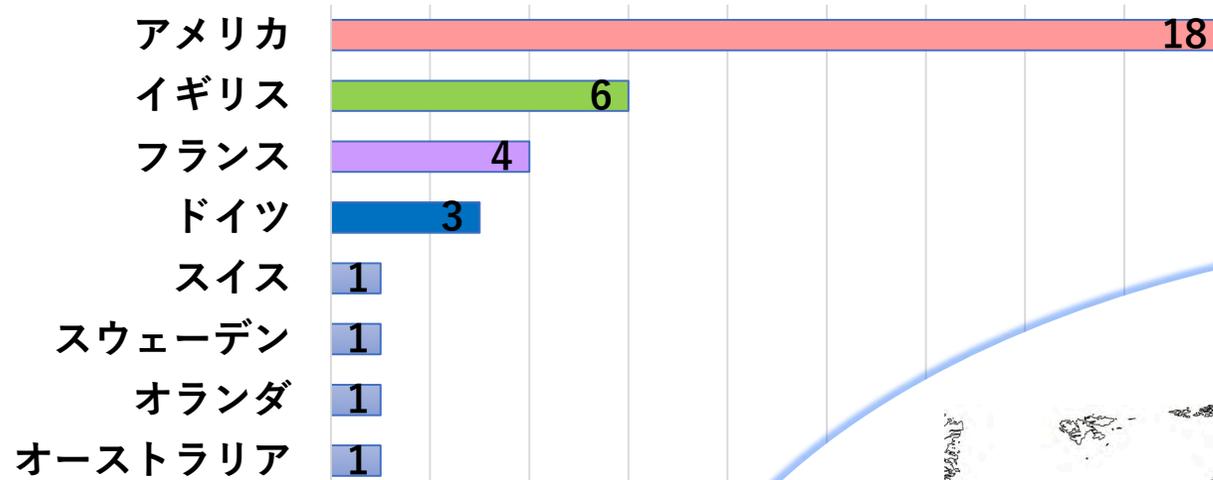


2018年～2021年の留学者（35名）の職位

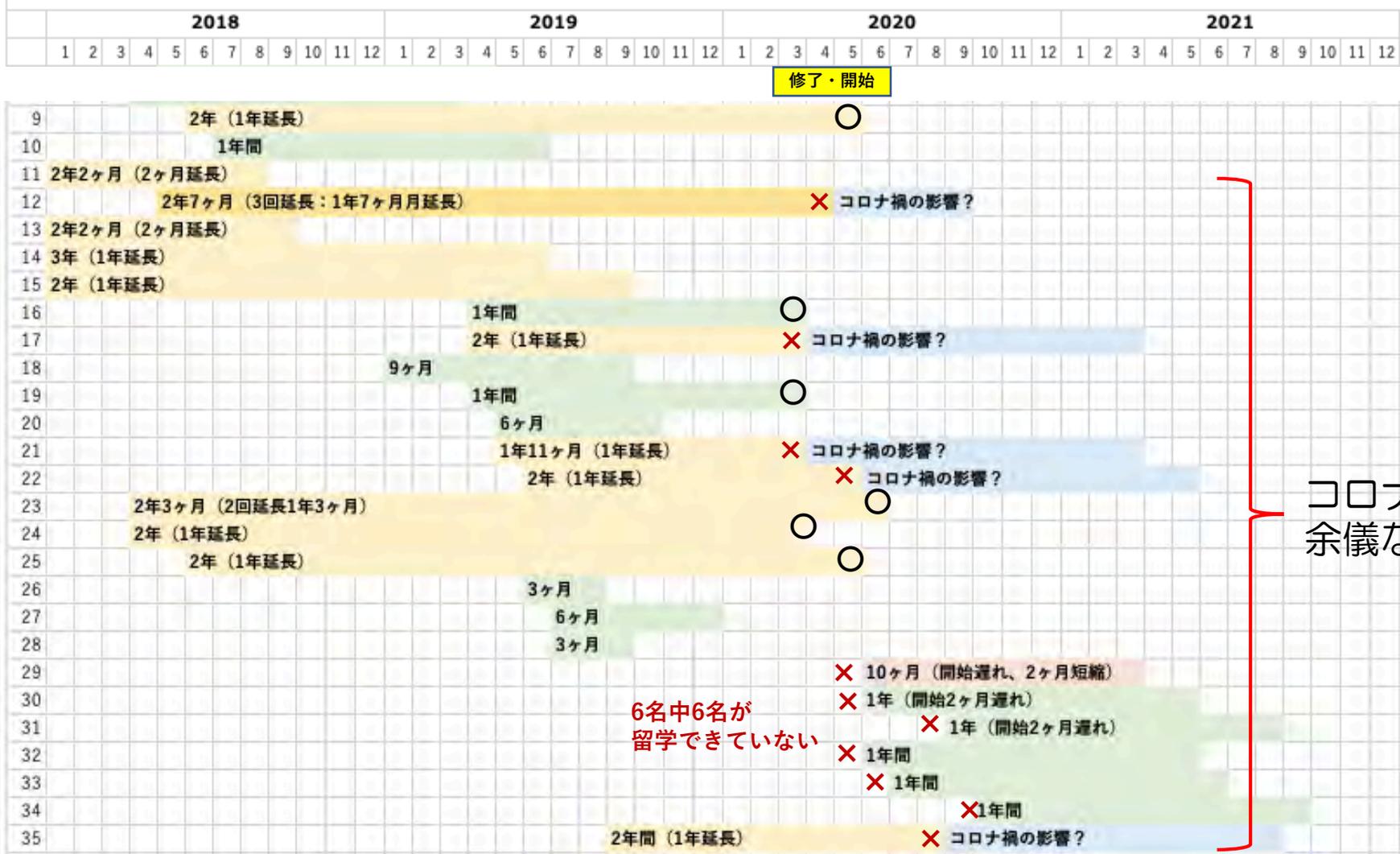


日本医科大学・日本獣医生命科学大学における過去3年間の留学状況：留学先

2018年～2021年の留学生（35名-予定者6名含む）の留学先



コロナ禍の影響を受けた留学生は2020年3月～6月に留学が終わる人と始まる人 - 留学予定だった6名は、大学の許可を待っている -



コロナ禍の影響で留学期間を変更を余儀なくされている

- 2020年3月～6月に留学修了予定者の10名中5名が1年延期
- 2020年3月～6月に留学開始予定者の6名中6名ともまだ留学できていない
(1名は、開始を早めて留学したが、2か月で帰国している)

2. 留学経験者への独自アンケート調査

- 留学経験者の実体験をもとに留学で得られることや遭遇した苦難、効率の良い留学についての意見を求めるアンケート調査を行った

【アンケート方法】

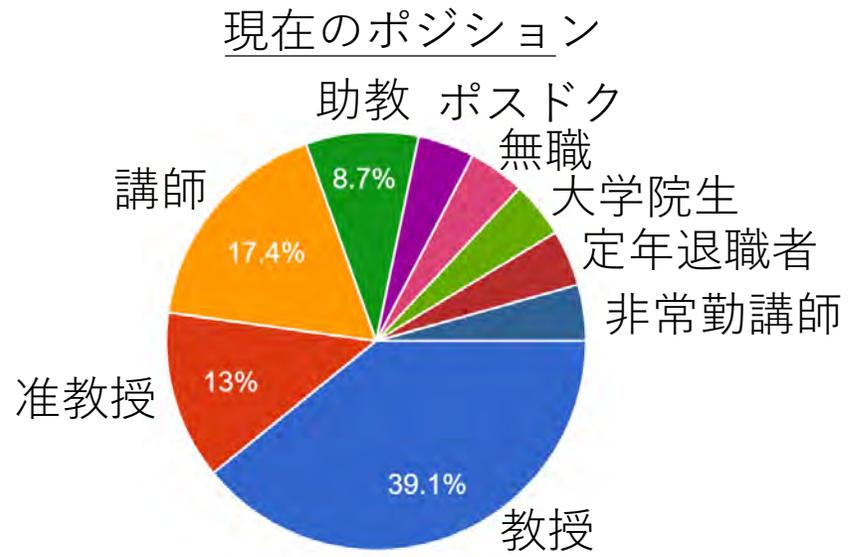
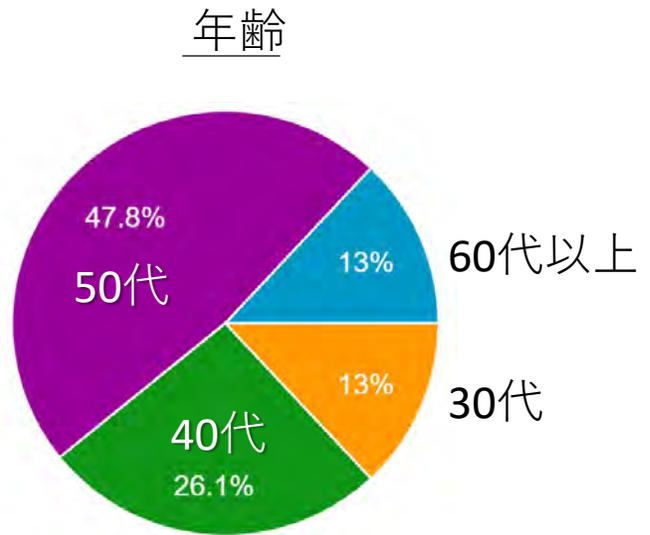
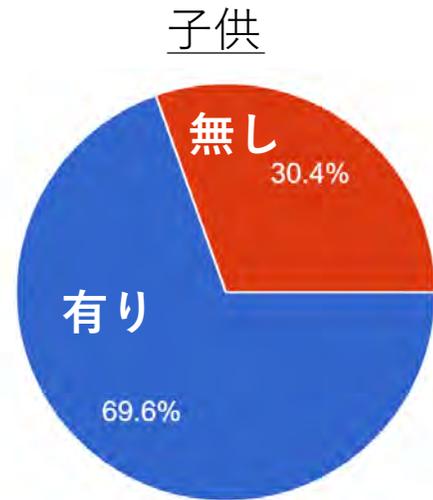
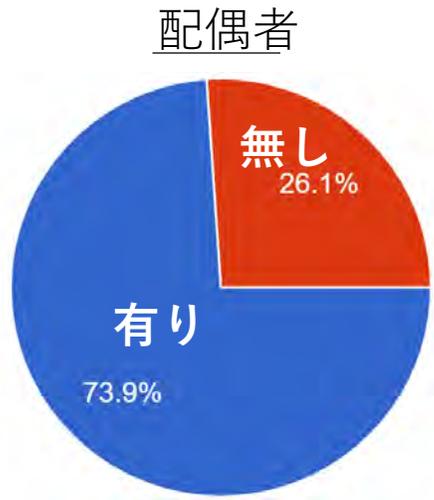
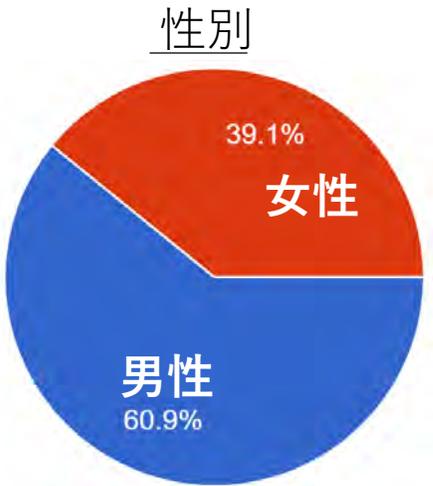
- 2020年10月1日～10月16日、GOOGLEフォームを用いてアンケート調査を行い、集計、分析した。
- グループメンバーが周囲にアンケートフォームを送信して協力を呼びかけ、任意で回答してもらった。

【回答者の属性】

- 本学関係者および一部本学以外の関係者も含み、合計23人から回答が得られた。

2. 留学経験者への独自アンケート調査結果①

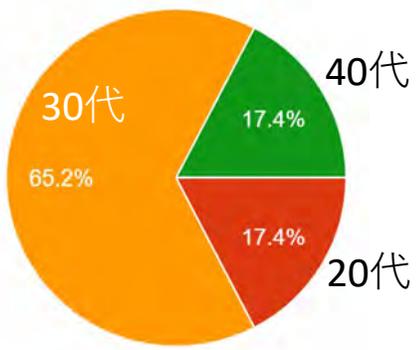
回答者の属性



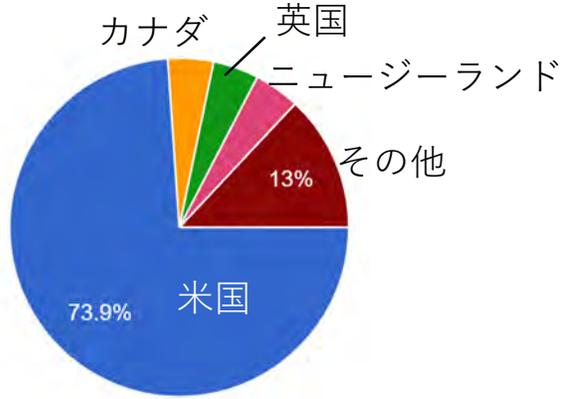
2. 留学経験者への独自アンケート調査結果②

留学時の状況は？

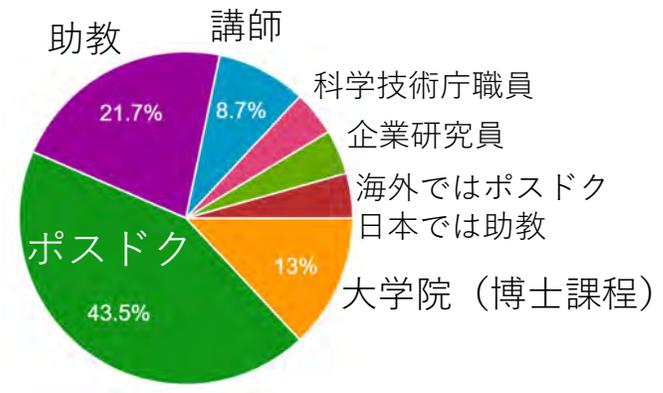
留学時の年齢



留学先の国（地域）



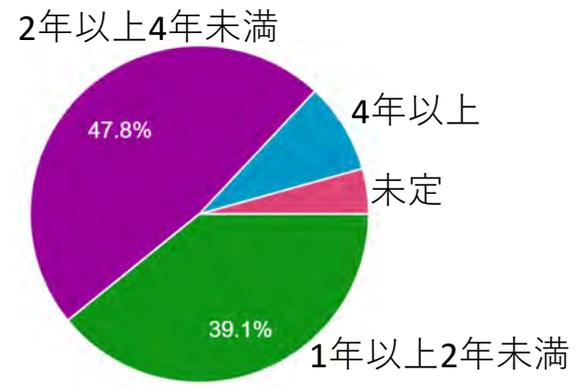
留学時のポジション



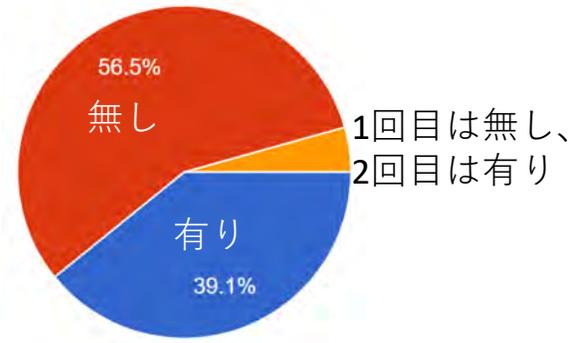
留学先の研究室の規模



留学期間

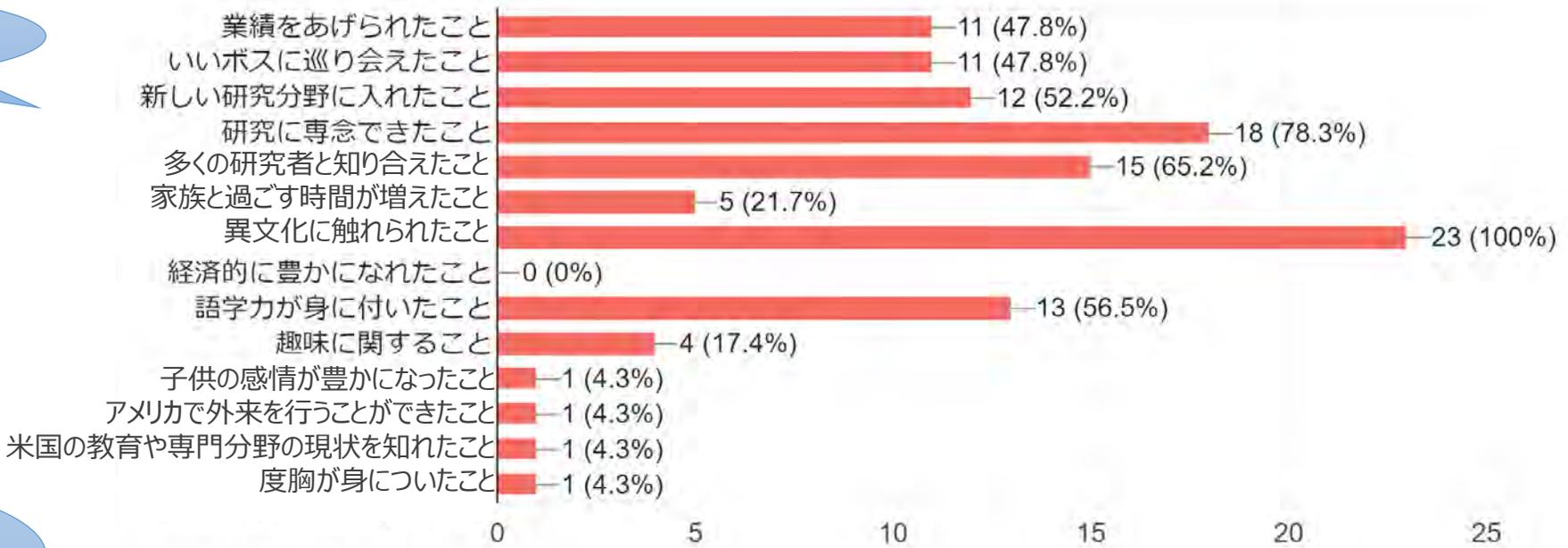


子供の有無

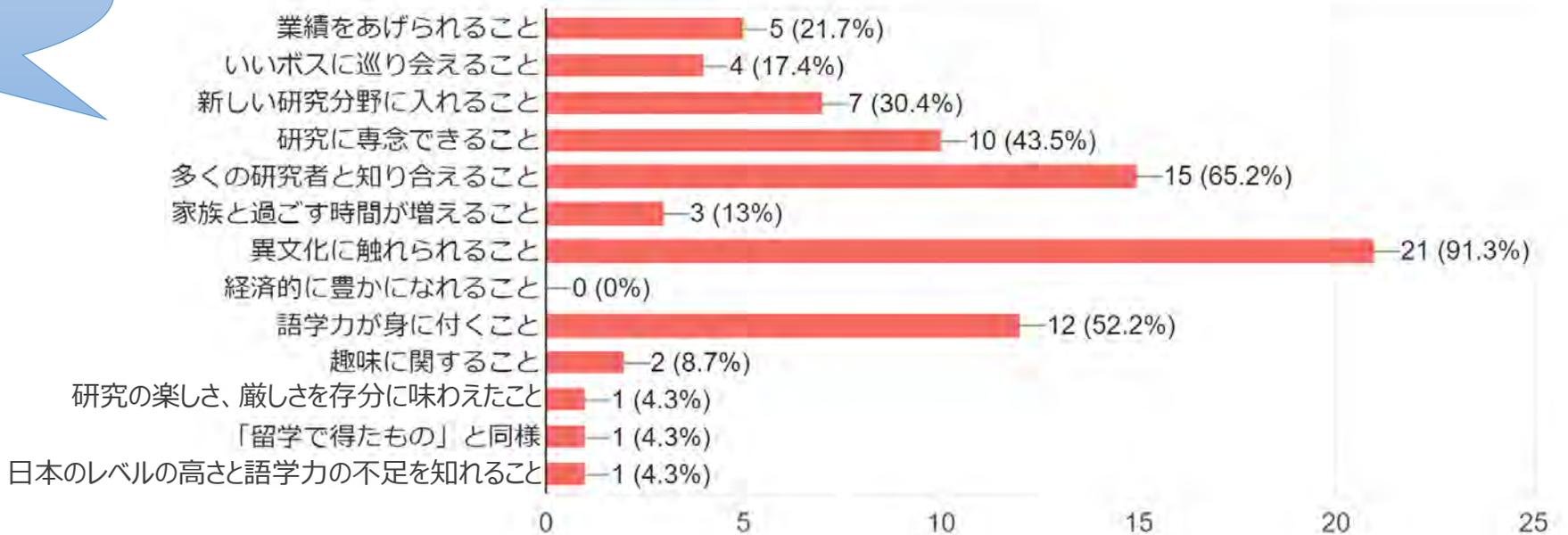


2. 留学経験者への独自アンケート調査結果③

留学で得たものは？

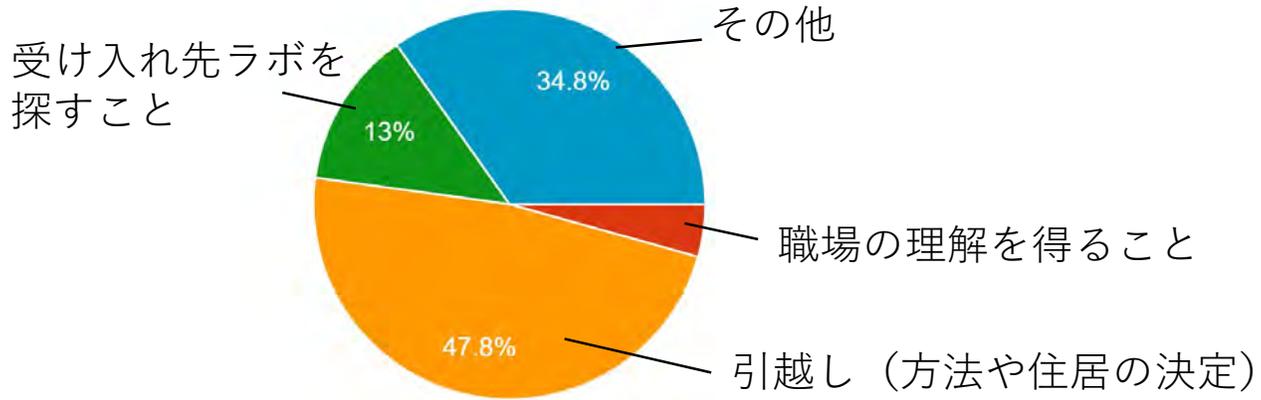


留学でしか得られないものは？

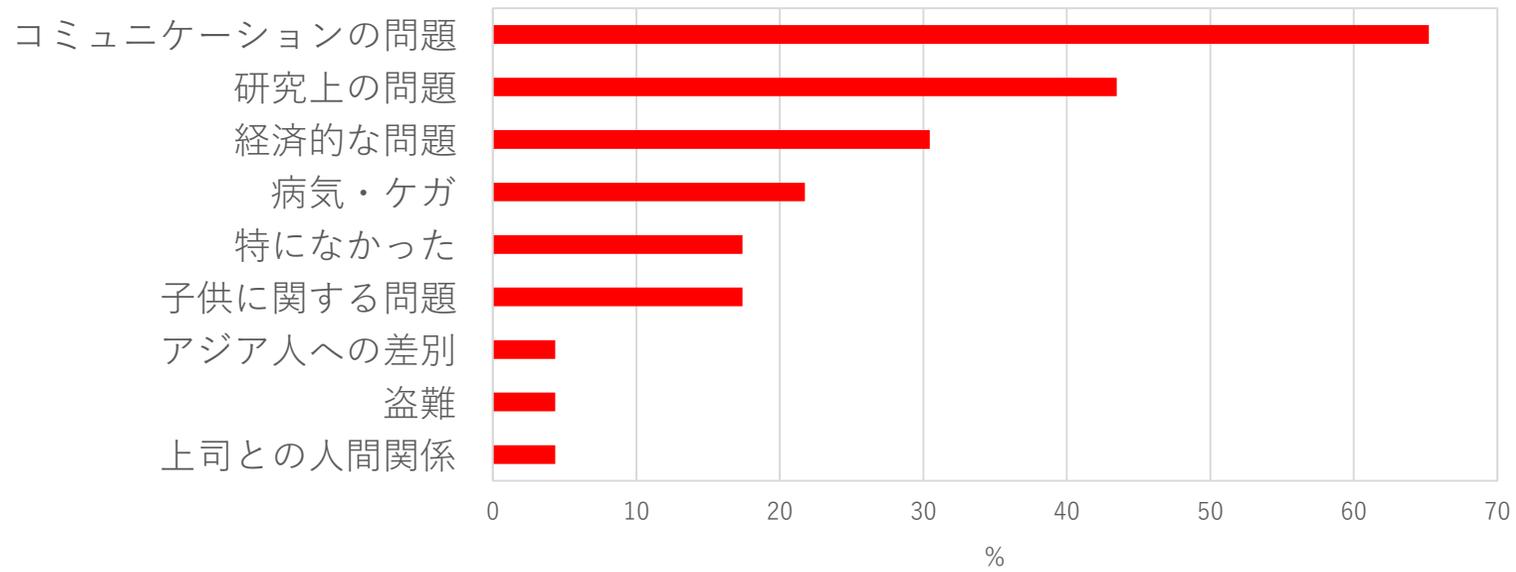


2. 留学経験者への独自アンケート調査結果④

留学準備で難しかったこと、苦勞したことは？

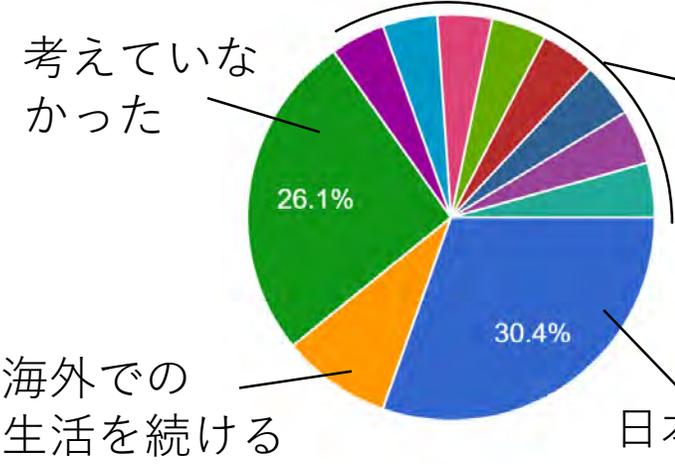


留学中に味わった困難は？



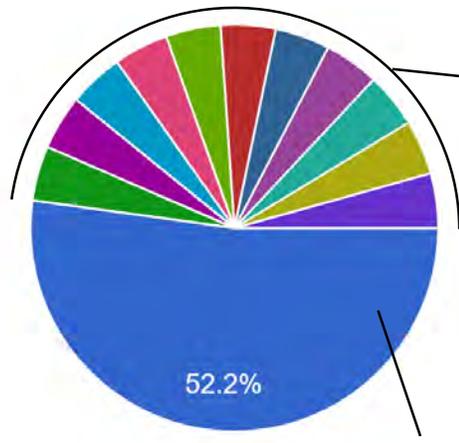
2. 留学経験者への独自アンケート調査結果⑤

留学後の予定は考えていましたか？



- 留学前の勤務先に戻る
- 臨床に当然戻ると思っていたが、結局基礎医学へ進んだ。
- 昇任
- 帰国し元の部署・職位で復職
- 医局に臨床医として戻り研究も並行して継続する
- 学位を取得すること

実際の留学後の状況は？



- 留学中
- 一軒家を買ったにもかかわらず、配偶者の仕事の都合で帰国した
- 昇任した
- 元の大学に戻った
- 元居た医局で臨床医として勤務、研究先ともコンタクトを継続
- 学位を取得できた

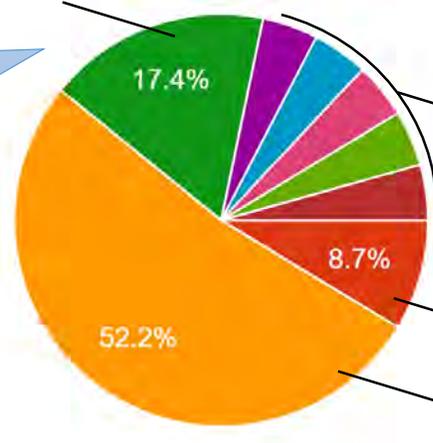
日本でアカデミックポストを得た

2. 留学経験者への独自アンケート調査結果⑥

留学の適齢期について

ライフイベント（結婚・出産・子育て・親の介護）と両立させるために最適な留学のタイミングは？

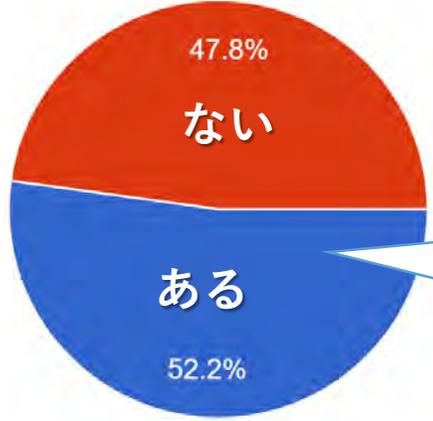
日本である程度のキャリアを積んでから



- 研究における武器を持ってから。
- いつでも良いと思う。
- 動きやすいのは独身で、親も自身も若い間
- タイミングではなく、チャンスがあればいつでも
- 人それぞれで最適なタイミングがあると思う

大学院時代
ポスドクとして

留学に年齢的なデッドラインはあると思いますか？



35歳と答えた人：3名
(主な理由：柔軟性の問題)
40歳と答えた人：7名
(主な理由：受け入れ先の制約の問題、研究費、体力的な問題)

2. 留学経験者への独自アンケート調査結果⑦

大学院博士課程から留学して学位取得後そのまま現地で働くようなケース
(40代 男性 助教)

効率の良い留学とは？ (自由意見)

留学の先に思い描く就職先がある事。
(40代 男性 講師)

ある程度自分の専門分野でskillを確立してから
目的を持って留学する
(40代 女性 講師)

日本人がボスのラボに行けば、面倒を見てもらえることが多くて
「効率がいい」かも知れません。(50代 男性 教授)

専門分野を明確にしたうえで、研究課題、
研究スケジュールを立案して留学すべき。
(50代 男性 教授)

論文生産力の高い研究室に20代のうちに留学する、
または日本で研究業績を上げてから留学する(50代 男性 教授)

自分の専門領域に近い留学先が良い。
帰国後に、日本での追加実験や論文作成が行いやすいから。
ある程度繋がりがあある研究者のもとに行き、1年は滞在
(30代 男性 講師)

明確な目的を持った留学(60代以上 男性 無職)
そこでしかできない研究(50代 男性 准教授)

日頃からアンテナを張っておいて、チャンスが来そうになったらいつでもアクション
を起こせるようにしておくこと。情報は力です。(50代 女性 非常勤講師)

効率的な留学はない
そもそも効率を求めるものではない、人生の夏休み、
無駄なことも役に立つ、、、
(50代 女性 教授、40代 女性 教授、40代 女性 准教授、50代
女性 助教)

周りの理解が一番大事。公私ともに濃密な付き合い、
帰国後にあっても関係を絶やさず、お互いに切磋琢磨する
(50代 男性 教授)

留学で得られた人間関係を持続し、帰国後の研究面
だけでなく、生活を豊かにすることに役立たせること(50代 女性 講師)

留学を終えて、それなりの業績や自身の研究能の引き出しが増えていけば、
効率が良かったと考えます。人や状況によってそれぞれ。(40代 男性 准教授)

やりたい研究をする(50代 男性 教授)

まとめ

本研究では、「**効率の良い留学**」研究テーマとして、

- ・ライフイベントと留学
- ・安定な将来の雇用と留学を両立させるにはどうしたらいいのか

という二つの疑問に対して、留学経験者へのアンケート、日本医科大学・日本獣医生命科学大学における留学状況等の調査結果をもとに考察を行った。

調査を通して、実際に留学する年齢やキャリアは、ポスドクや助教などに在籍する30代を中心とした比較的若い層が多いこと、既婚者や子供がいた方も多いことが分かった。さらに、経験者の思う効率の良さについて自由意見を求めた結果では、専門性を深めるなどの明確な目的意識を持った留学準備が、結果的に効率性に繋がっていくといった多数の意見を得ることができた。

効率の良い留学というのは個人個人で基準が異なるため、経験者の様々な意見を取り入れ、留学希望者それぞれが状況に応じて試行錯誤することによって効率の良い道を見出していけるのではないかと思われる。

本研究で得られた知見を、これから留学を考えている教職員や学生への情報提供に役立てていきたい。

謝辞

アンケートにご協力いただいた方々、日本医科大学の先生方、日本獣医生命科学大学の先生方、日本医科大学しあわせキャリア支援センターの方々、ありがとうございました。

参考資料

- アンケート調査（グループメンバーの知人・関係者23人、GOOGLEフォームを利用した任意回答）
- ONE HEALTH 日本医科大学広報誌
- 留学のすゝめ2020（2020年9月18日開催）
- 日本学生支援機構（JASSO）海外留学支援サイト